

関係者インタビュー

三重金属工業株式会社

執行役員 新規事業担当 企画開発部 部長 川原田 純次氏

企画開発部 担当 宮崎 重行氏

2013年2月28日 インタビュー:中部オフィス 大石 誠



「カチャっと君」で点滴の付け替えをもっと安全・スムーズに

～医療現場のニーズを捉え、研究開発をつづける～



川原田 純次氏

当社は、昭和29年の設立以来、金型技術を活かした自動車部品づくりをしてきました。医療機器開発に取り組み始めたのは2年半前です。請負型事業からの脱却を図ろうと、三重県が行った医療ニーズのマッチングで医療機器の試作品をつくったのがきっかけでした。現在は、三重大学との共同研究プロジェクトの中で、特殊な点滴スタンド「カチャっと君」の研究開発を進めています。「カチャっと君」は点滴の付け替えで起こる「チューブのはずれ」「時間と人手がかかる」といった問題を解消し、より安全で効率的な作業を可能にします。

一方、我々には販路開拓の課題がありました。医療現場の多くは、作業変更に伴うリスクを考え、新しい医療機器を取り入れることに消極的です。また、今まで受注生産のみをしてきた当社にとって、「ものを売る」と

いうことはとても難しいことでした。そのような中で、何かヒントを得られるのではないかと今回の事業に参加することを決めました。

◆「背中を押されて」HOSPEX出展へ

研修では、JMACのコンサルタントから「誰に売するのか」「使う人のメリットは何か」などの投げかけや情報提供により、参加メンバーの頭の中が整理されていきました。それが、簡潔でわかりやすい仮想カタログ作りにつながったのだと思います。「カチャっと君」というネーミングも、このときに生まれました。HOSPEXについては、製品の完成度がまだ低く、出展するには早いと思っていました。しかしコンサルタントに、「今こそやるべきなんです」と背中を押され、出展することに決めました。出展してみると、今まで接点のなかった医療関係者や商社などが立ち寄ってくださり、様々な意見を集めることができました。「便利だから使ってみよう」「色々なベッドに対応できるようにしてほしい」という医療現場の生の声や、「この技術で一緒に新しいものを開発したい」という取引につながるお話もたくさんいただき、大変有意義な3日間となりました。



宮崎 重行氏

◆次の「カチャっと君」が見えてきた

HOSPEXを通して認識したのは、「カチャっと君」には「どのタイプのベッドにも装着できる汎用性」が必要で、それが一番の課題であるということです。開発には医師との連携も欠かせません。その専門性の高さゆえ、意思疎通には苦心していますが、それを助けてくださったのが三重大学の先生でした。これからも、三重大学との共同研究プロジェクトを軸に、商品開発に努めていきたいと思っています。また、HOSPEXで出会った商社との連携、医師の学会発表などを通して積極的な販路開拓をしていきたいと考えています。

◆すべてはお客様のために —「最後までやりきる」強い思いを持ちつづける

これまで、医療機器開発には2年半ほど取り組んできました。新規事業のため苦勞していますが、今回の事業の参画を通じて「最後までやりきる強い思い」を改めて思うことが出来ました。特に「このままで良いのか」「事業として成功するのか」という不安やモヤモヤ感をJMACの指導によりクリアできたことは大変価値のある取り組みでした。コンサルタントや事務局の皆様には感謝しています。また、今回の支援事業では、同じ熱い思いを持つ参加企業と出会い刺激を受けました。我々も「頑張らなくては」と改めて思うことができました。今後も、我々の理念である「お客様に『最大の安心と満足』を提供できる製品づくり」をめざし、研究開発を続けていきたいと思っています。

■ 本事業に関するご紹介はこちらから >> http://www.jmac.co.jp/special/health_care/

【お問合せ】株式会社日本能率協会コンサルティング

TEL.03-3434-0982 mail:healthcare_jmac@jmac.co.jp

URL:<http://www.jmac.co.jp>